【中学部】

1　実践内容

3 年次も合同授業である音楽と体育において ACTION シートを活用しながら主体性を引き出す授業を目指して授業改善を図った。また、「より取り組みやすい PDCA サイクルの検討・工夫」という２年次に出された課題点を踏まえ、3 年次では２年次までの実践をもとに作成した目標のリストや主体性を表すキーワードのリストを参考にして目標設定を行ったり、ACTION シートの様式を見直したりした。ACTION シートの主な改善点は以下のとおりであり、一部を例として図 1～図４に示した。

・生徒の変化が分かるように生徒ごとのシートと、その日の全生徒の様子が分かるように授業ごとのシートを作成した。エクセルで前者に記入すると後者にも反映されるようにした。その他、何点か入力の手間を省くための改善を行った。

・思考力、判断力、表現力等と学びに向かう力、人間性等については単元をまたいで主となる目標を設定することとした。

・音楽と体育で、教科の特徴や生徒が示す姿が違うため、記録を取りやすいようにそれぞれの教科で ACTION シートの内容や構成を変更した。音楽は毎授業の評価は記述のみにし、記号による評価は単元の最後のみにした。体育は 3 観点で立てた目標ごとに記録する欄を設けた。

**題材名：「ドラムサークル～ファシリテーターに挑戦しよう～」**
**生徒名：A.S.**
① 簡単なリズムパターンやスタート、ストップの合図を出すことができる。
② 音や音楽を聴いてイメージをふくらませ，どのように表現するかについて思いや意図をもつ。
③ 様々な音楽に親しみながら，友達と協働して音楽活動に主体的に取り組む。

| | 目標 | 評価 | 生徒の様子、教師の支援 |
|---|---|---|---|
| 1回目 | ① | | ・「We will rock you」で使ったジャンベを選んだ。<br>・手のひらで力強く何度も叩いていた。リズム真似は数回繰り返すことによってリズムを覚え、正確に演奏できるようだった。リズムパターンを提示するときには連打になることが多かったので、「たん たん たん でやってみて」と声をかけたが連打になってしまった。<br>・ファシリテーションキューを出すのは初回だったので恥ずかしそうだった。声は出なかったが身振り手振りで出すことはできた。慣れればもう少し堂々とできそう。 |
| | ② | | |
| | ③ | | |
| 2回目 | ① | | ・マレットでジャンベを叩いた。「た　たん　た　たん」のようなリズム真似は難しそうだったが、簡単な「たん　たん　たん」のリズム真似は一人でできた。リズム真似ではないが、三三七拍子のリズムを上手にやっていた。<br>・ファシリテーションキューは、Jさんを楽しませるために、自分で考えてJさんの好きそうな動物の鳴き声を交えてやっていた。型にはまらず、自由なやり方OKの雰囲気が、Aさんのびのびとした発表に繋がった気がする。<br>・発表順が最後ではなかったため一瞬ためらったが、帰りの時間があることの確認（早退のため）や、動物の鳴き真似でやる提案に教師が賛同する等で、すぐに立ち上がり発表することができた。 |
| | ② | | |
| | ③ | | |

図１　音楽の生徒ごとの ACTION シート

**題材名：「ドラムサークル～ファシリテーターに挑戦しよう～」**
**１回目：１月13日**

| 生徒 | 生徒の様子 |
|---|---|
| A.S. | ・「We will rock you」で使ったジャンベを選んだ。<br>・手のひらで力強く何度も叩いていた。リズム真似は数回繰り返すことによってリズムを覚え、正確に演奏できるようだった。リズムパターンを提示するときには連打になることが多かったので、「たん たん たん でやってみて」と声をかけたが連打になってしまった。<br>・ファシリテーションキューを出すのは初回だったので恥ずかしそうだった。声は出なかったが身振り手振りで出すことはできた。慣れればもう少し堂々とできそう。 |
| K.Y. | ・楽器を選ぶときはすぐに銅鑼を選んで、大きな音で鳴らしていた。「優しく叩いてみて」と声を掛けると小さく優しく叩いていた。手で押さえたりして調整して叩いていた。<br>・リズム遊びではごく簡単なリズムは真似できていたが、徐々に適当に叩いたりTIや前に立った人を見ていなかったりしていた。話しているTの方を見ていなかったり、勝手に叩いたりという場面もあった。リズム打ちはだんだんと間を空けられず連打になってしまっていた。<br>・ドラムサークルでは最後にR先生がやったときにストップの合図を全然見ておらず、1人だけ鳴らし続けていた。スタート・ストップの合図もまだあまり理解できていない様子で、書いてあるとおりにキューを出すのは難しかった。特にカウントダウン・アップの数字が英語だとスムーズに言えない？感じだった。 |

図２　音楽の授業ごとの ACTION シート

**ACTIONシート（個人ごと）**
**単元名：「野球」**
D.Y.

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 目標① | Ⅰ | ボールのタイミングに合わせて左足を踏み込み、力強いスイングで打ち返すことができる。 | | | | |
| 評価① | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 | 5回目 | 6回目 |
| | B | B | B | | | |
| 目標② | Ⅰ | バッティングが上手くできたかの感想をカードから選び、実演などで伝えることができる。 | | | | |
| 評価② | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 | 5回目 | 6回目 |
| | B | B | B | | | |
| 目標③ | Ⅰ | バッティングだけでなく、走塁、守備など、様々な動きにおいて自信をもち、最後まで楽しくミニ野球に取り組むことができる。 | | | | |
| 評価③ | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 | 5回目 | 6回目 |
| | B | B | B | | | |

| | 生徒の様子、教師の支援 | | |
|---|---|---|---|
| | 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 1回目<br>11/10<br>（火） | ・素振りでは、身体の向き、スイングが不安定（真横に振る、ふらつく等）だったが、ゲームで飛んできたボールを振る際は、体重移動、スイングが安定してできていた。 | ・感想発表では、笑顔で自分でカードを選びに行くことができ、声を出して『楽しかった』と伝えることができた。 | ・自分の順番が近くなるとバットを持ってバッターボックスへ向かう様子が見られた。<br>・塁に出るときは、きちんとバットをかごに戻してから、思いっきり走って移動できた。<br>・キャッチャーのポジションにいたが、始めは教師が拾ったボールをピッチャーに返していたが、徐々に自分から拾いに行き、ピッチャーに返す様子が見られた。 |
| 2回目<br>11/13<br>（金） | ・素振りの際、身体の向く方向、スイングの軌道を一緒に確認すると安定してきたが、ゲームで実演の時はほぼ完璧にできている。 | ・感想発表では、友達の発表も相手を見ながら聞いており、自分から手は上げないものの、発表したそうにそわそわしていた。（当てられるのを待っていた） | ・準備や片付けも積極的で、守備ではキャッチャーのポジションの要領を得て、ほぼひとりで活動していた。<br>・打った後は、バットをかごに戻すことを忘れるほど思いっきり走って塁に出ていた。友達の動きをよく見ており、ゲームに集中していた。 |

図３　体育の生徒ごとの ACTION シート

**ACTIONシート（授業ごと）　　1回目：　　11月　10日**
**単元名：「野球」**

| | 知識及び技能 | | 思考力、判断力、表現力等 | | 学びに向かう力、人間性等 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒 | 目標 | 評価 | 目標 | 評価 | 目標 | 評価 |
| D.Y. | Ⅰ | B | Ⅰ | B | Ⅰ | B |
| | ・素振りでは、身体の向き、スイングが不安定（真横に振る、ふらつく等）だったが、ゲームで飛んできたボールを振る際は、体重移動、スイングが安定してできていた。 | | ・感想発表では、笑顔で自分でカードを選びに行くことができ、声を出して『楽しかった』と伝えることができた。 | | ・自分の順番が近くなるとバットを持ってバッターボックスへ向かう様子が見られた。<br>・塁に出るときは、きちんとバットをかごに戻してから、思いっきり走って移動できた。<br>・キャッチャーのポジションにいたが、始めは教師が拾ったボールをピッチャーに返していたが、徐々に自分から拾いに行き、ピッチャーに返す様子が見られた。 | |
| R.N. | Ⅲ | B | Ⅲ | B | Ⅲ | C |
| | ・腰をひねり力強いスイングができている。<br>・ダウンスイングである。 | | ・ゲーム中にも適宜確認することで「ボールをよく見る」というコツを意識し、打席に立つことができていた。<br>・発表場面では自信はなさそうだったが意識したところを聞かれたときに「よく見て打ちました」と答えることができた。 | | ・順番にスイングをするときや打順を決めるときには積極的に挙手をしていた。<br>・自分の番のことだけを考えていて、他者のプレーに注意している様子が少なかった。 | |
| A.O. | Ⅰ | C | Ⅰ | B | Ⅰ | C |
| | ・素振りでは両手でバットを振ることができるが、動いているボールを打つ際は片手になってしまう。 | | ・選択肢の中から「うまくできた」のカードを選び伝えることができた。 | | ・バットを使うことに意欲的であり、体操や素振りでバットを使う際には勢いよくバットを取りに行っていた。<br>・ | |

図４　体育の授業ごとの ACTION シート

２　反省

（１）成果

**〇研究テーマに関して**

昨年度までと同様、１単元４回以上の授業実践と ACTION シートを活用した PDCA サイクルの促進により、生徒の主体的な姿に迫ることができた。

成果のまとめとして七人七色の主体的な姿と、その姿を引き出すために有効だったと思われる支援を表に示した。

**表１　音楽における各生徒の主体的な姿とその引き出し方**

| | 生徒の主体的な姿 | 主体性の引き出し方 |
|---|---|---|
| Y.D. | ・自分から声を出して発声練習をしたり歌ったりする。<br>・発表後に満足そうな表情をする。 | ・親しみやすい教材を用いる。<br>・できたところを見つけて褒める。 |
| N.R. | ・よりよい演奏に向けてどのように表現するかについて思いや意図をもつ。<br>・友達の良いところを真似する。 | ・どのような演奏が良いのかが分かりやすい題材を用いる。<br>・一人ずつ発表する時間を設け、お互いに見合う。 |
| O.A. | ・自分から曲の雰囲気に合わせて体を動かす。<br>・人前で発表することを楽しむ。 | ・リズムやテンポが良く、乗りやすい曲を扱う。<br>・発表する場面を多く設定する。 |
| S.A. | ・自分なりに思いや意図をもって工夫して表現することができる。<br>・失敗を恐れずに演奏することができる。 | ・何をやっても失敗にならない教材と環境づくりをする。<br>・分かりやすく見通しの持ちやすい教材を扱う。 |
| M.J. | ・友達の様子（ダンスなど）を見て拍手をしたり笑顔になったりする。<br>・自分から手を伸ばして楽器を鳴らしたり、歌詞をめくったりする。 | ・友達の様子が見やすいように座席配置を工夫する。<br>・興味をもてるような楽器や歌詞プリントを用意する。 |
| Y.K. | ・曲の雰囲気を感じ取って表情を変える。<br>・練習に積極的に取り組む。 | ・同じ教材に繰り返し取り組む。<br>・人前で発表することで達成感を得られる場を設定する。 |
| K.K. | ・友達との演奏を楽しむ。<br>・落ち着いて合奏に参加する。 | ・本人の興味のもつ楽器を使う。<br>・声かけや支援は必要最小限にする。 |

**表２　体育における各生徒の主体的な姿とその引き出し方**

| | 生徒の主体的な姿 | 主体性の引き出し方 |
|---|---|---|
| Y.D. | ・移動の際に走るなど動きが活発になる。<br>・自分から声を出す。 | ・授業で取り扱う技術を本人に合わせたものにする。<br>・得意な点やうまくできた点を称賛したり、雰囲気を盛り上げたりする。 |
| N.R. | ・プレイのポイントを意識して取り組む。<br>・周りに注目することができる。 | ・端的にプレイのポイントを伝える。<br>・友達への声掛けのモデルを示す。 |
| O.A. | ・指示に素直に応じる。<br>・何度も試行しようとする。 | ・興味を引き出すように示範を示したり、友達の様子を見る機会を設けたりする。<br>・１人ずつ試行する機会を設ける。 |
| S.A. | ・スムーズに活動に取り組む。<br>・前向きな言葉が出る。 | ・成功しやすいような設定をしたり、成功した時に称賛したりする。<br>・好きなものの視覚支援やフレーズを用いる。 |
| Y.K. | ・やる気や喜びや悔しさを口にする。<br>・プレイのポイントを意識して取り組む。 | ・勝敗や得点がつく設定にする。<br>・キーワードでプレイのポイントを伝える。 |
| K.K. | ・落ち着いて活動に参加する。<br>・自分で判断して行動できる。 | ・活動の流れや場所を明確にする。<br>・注目しやすいような視覚支援を用いる。 |

**〇昨年度の課題（より取り組みやすい PDCA サイクルの検討）に関して**

「思考力、判断力、表現力等」と「学びに向かう力、人間性等」については単元をまたいで主となる目標を設定したことにより、目標設定が容易になったり、目標に関する生徒の行動に注目がしやすくなったりした。

体育では、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点別に生徒の記録をとることで、多面的に生徒の実態を捉え、授業改善を図ることができた。

音楽では、記載する内容は昨年度までよりも少なくなったが、同様の成果を出すことができた。

ACTION シートの取り組みを継続することで、授業改善に対する意識が高まり、普段から授業改善に対する職員の会話が増えた。

**〇開かれた授業研究会に関して**

体育のベースボール型球技の単元（単元名「レッツ！プレイボール！」）で研究授業を行った。研究協議は、参観者が気づいた生徒の主体的な姿をシェアする形で行った。自分で目標を決める姿、自分から仲間を応援する姿など参観者から多くの主体的な姿が挙げられた授業であった。岩手県教育委員会事務局学校教育課 五安城正敏 主任指導主事からは、「生徒の主体的な姿が見られたのは、主体的な教師の取り組み（授業づくり）があったからだと感じた。」「T１～３が連携して動いており、ACTION シートが生かされていると感じた」という助言をいただいた。

（２）今後について

音楽と体育以外の各教科等でも今年度までの取り組みを活かし、生徒の主体性を引き出す授業づくりにより一層取り組む必要がある。また、音楽と体育の授業づくり、授業改善を通して深めた教科の内容の取扱いや教科の見方・考え方を、他の教科や領域、各教科等を合わせた指導について考える際にも活かしていきたい。